～学び　愛し　翔る　西郷小～

西郷富士

QR コード登録お願いします。

西郷小学校
令和２年度第 25 号
令和２年９月３０日
文責　校長　田中裕子

コロナ禍に負けない感動の体育大会

快晴の下、子ども達が集中して競技に臨み、周りに大きな感動を与え無事に体育大会が終了しましたことに心からお礼申し上げます。当日は、これまでの練習の成果を存分に発揮し、子ども達は躍動しました。今年は、感染拡大防止の点から参観者数の限定や写真撮影場所の設定など。保護者の皆様に様々に協力を依頼することとなりました。また、初の半日開催となりましたがいかがだったでしょうか。ご意見等、いただけましたら幸いです。

さて、今回の見所はやはり全員で行う応援合戦だったと思います。紅白共に９月早々から練習を始めたためか完成度が高く、全員でつくり上げた応援だったと思います。どの子も目を輝かせて応援歌を歌ったり、振りをしたりする姿は、皆様に大きな感動を与えたのではないでしょうか。何度も練習を見てきましたが、本番の声はそれまでより一層大きく、そしてまとまりのあるものでした。紅組の山下団長は団の雰囲気をその明るさで引っ張り、白組の森園団長は誠実な人柄で団をまとまりのあるものにしていきました。支える副団長や応援団員も、団長を何かと支えており、その姿は間違いなく下級生に引き継がれていくのを感じました。

表現として、下学年のダンス「咲きほこれ！紅蓮の華」は、一人一人がぽんぽんと共にきらきらしており、まさに華となっていました。隊形の変化も密にならないように工夫されていていました。

上学年は、40 年来続く西郷体操に臨みました。4 年生が高学年に混じってもほとんどわからないほど上達していました。親子で踊るという家庭もあり、伝統の重みを感じました。

他にも親子競技や徒競走等、短い時間でしたが子ども達は集中して競技に臨み、全力で力を発揮しておりやりきったという気持ちをもっていると思います。

しかしながら、紅白対抗ということで勝負があり、たくさんの子ども達が涙を流していました。その姿は、誰が見ても心から美しいと言えるものではないでしょうか。力を出し尽くし、これ以上できないという限界まで挑戦したからこそ、涙が出ます。中途半端でやっても到達できない気持ちです。限界を超えるほどに頑張った６年生の姿は、在校生だけでなく大人の私たちにも大きな感動を与えたのでした。仲間と共に涙する経験ほど成長をもたらすものはありません。必ずやこの経験をバネにまた一つ階段を上っていくものと確信しています。どうぞこれからも、子ども達を温かく見守りくださいますようお願いいたします。

高学年の働き

本大会を支えてくれたのはやはり高学年の皆さんです。競技と並行して各仕事も受け持ちます。自分の役割を果たそうと真剣な面持ちで仕事に励む姿に力強さを感じました。

また、前日準備では１時間余りで全てを終わらせました。誰一人遊ぶことはなく、黙々と作業をする姿にこれこそが西郷の強みだと思った次第です。

「働くときはみんなで働く！」
これができる学校は大丈夫です！

子ども佐賀新聞に6年生が記事を書いてくれました！いい記事ばかりです！

下学年ダンスの様子が　10 月 7 日（水）18 時過ぎ　NHK「ただいま佐賀」にて5分ほど放映予定です。